

ふらのコミュニティレポート

FURANO COMMUNITY REPORT



▲東北・北海道ブロック大会で見事最優秀賞を勝ち取った部員たち

JA furano seinenbu higashiyamashibu

J A ふらのの青年部東山支部



▶子どもたちと一緒にそば打ち体験

大舞台で地域をPR めざすは全国一

「**耕**」作放棄地を有効利用し、ソバを作付して地域を活性化しよう」と、平成14年から

取り組みを始めたJAふらの青年部東山支部(幕田桂一支部長)。これまでの成果を発表するJA青年部大会「活動実績発表」の、全道大会と東北・北海道ブロック大会で、それぞれ最優秀賞を受賞し、2月14日開催される全国大会の切符を手に入れました。「全国大会は未知の世界。部員22人が力を合わせ、1年間練習してきたものをすべて出し尽くして、地域を精一杯アピールしていきます」と話す幕田支部長。大舞台で「こちら、過疎最前線!」と題して発表する大野寛之さんは「今までの大会ではかなり緊張しましたが、ここに来てたら良い緊張感を保ちながら頑張ります」と意気込みます。また、パワーポイントで大野さんをサポートする黒田誠さんは「手さぐり状態のパソコン操作で、部員の要望を形にするのは難しい部分もありました」と話しますが、スライドの仕上がりは、部員の評価も高いようです。

全国大会には、部員や関係者が応援に駆け付け、全国一をめざします。

今回の取り組みでは、収穫されたソバを粉にして地域にも還元。収穫感謝祭でそば粉を配布したり、樹海小学校の子どもたちやふれあいサロンのお年寄りたちとそば打ち体験で交流するなど、地域の人たちに楽しんでもらえる企画も実施しています。「いろいろな場所ですば打ちをしているので、この経験を生かして冬期間限定で出前講座も考えていきたい」と話す幕田支部長。東山支部では、これからも地域活性化に向け、部員同士の絆を深めながらさまざまな取り組みを展開していきます。

